

第3次しろい健康プラン 令和5年度の実績・評価について

1 到達目標の達成状況

【到達目標—健康寿命を延ばす】

	策定時	目標値	実績				
			H29 年度	R5 年度	H30 年度	H31 年度	R2 年度
男性	80.7 歳	81.3 歳	81.0 歳	81.0 歳	81.5 歳	81.1 歳	81.1 歳
女性	83.8 歳	84.4 歳	83.6 歳	83.8 歳	84.2 歳	84.7 歳	84.7 歳

※表は、各年10月1日現在の健康寿命の値。

※健康寿命の算定には、算定年度の前後を含む3か年の数値が必要となり、国の統計等が公表されていないため、令和3年度の数値が現時点での最新値となる。

健康寿命について男性は策定時からはやや延伸しているが、平成30年度以降は横ばい傾向となっている。女性は令和2年度から0.5歳伸び、目標値を上回った。

2 健康増進計画の実施結果

(1) 取り組み事業の実施状況

〔詳細〕資料2 (P. 1～P. 4)

【集計】令和5年度の事業実績（重点的取り組み事業を含む）

	総 計	「○」 当初の目標 値以上に実 施できた事 業	「○」 当初の目標 値どおり実 施できた事 業	「△」 実施したが、 当初の目標値 には至らなか った事業	「×」 実施できな かった事業	「-」 測定不能の 事業
事業数 (割合)	42 (100.0%)	2 (4.8%)	26 (61.9%)	13 (31.0%)	1 (2.3%)	0 (0.0%)

「当初の目標値どおり実施できた(○)」「当初の目標値以上に実施できた(○)」とした事業は全体の約7割であり、健康教育や健康相談、普及啓発及び情報提供などであった。

「実施したが、当初の目標値には至らなかった(△)」とした事業については全体の3割であり、健(検)診や予防接種などであった。

ア 重点的取り組み

ロコモティブシンドローム予防事業

重点的取り組み 1	高齢者が自立して生活するため、成人期と高齢期の介護予防と健康づくりの充実					
	ロコモティブシンドローム予防のため、さまざまな場や機会で、運動や食事などの予防行動の実践を促します。					
事業計画：骨量測定者の中、運動・食事の予防行動を実践している者の割合（20～59歳）						
	現状値 (H31年度)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目標値	-	40.0%	45.0%	50.0%	55.0%	60.0%
実績	34.0%	50.0%	48.0%			
評価	-	◎	◎			

実績：事業計画では年間30回目標のところ実績36回、延べ594人に実施

事業	回数（延）	人数（延）
ロコモティブシンドローム予防講座時	3回	29人
あかちゃん育児相談の来所者	18回	189人
骨密度測定会	5回	289人
なるほど行政講座	10回	87人
合 計	36回	594人

評価：実績が当初の目標値以上に実施できた。

理由：骨量測定者に実施したアンケート集計結果では、予防行動を実践している割合が目標値を上回り、48.0%であった。

今後：令和5年度実績値が48.0%と目標を上回ったものの、前年度50.0%よりやや低下していたため、今後も若い世代への啓発や市民団体向けの講座を市内各地で行う取り組みを継続すると共に、さらに民間企業との連携により実施体制を充実させていく予定である。

乳がん検診・大腸がん検診

重点的取り組み 2		生活習慣病の発症や重症化を予防する取り組みの充実				
がんの早期発見・早期治療につなげるため、乳がん検診問診票の送付対象者の拡大や大腸がん検診の未受診者への再勧奨を実施します。						
事業計画：乳がん検診・大腸がん検診の受診率（40～69 歳）						
		現状値 (H31 年度)	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
乳 がん	目標値	–	22.6%	23.6%	24.6%	25.6%
	実績	20.5%	19.7%	20.4%		
	評価	–	△	△		
大腸 がん	目標値	–	11.2%	11.6%	12.0%	12.4%
	実績	10.8%	8.5%	8.2%		
	評価	–	△	△		

- 実績：乳がん検診 2年に1回の受診を基本とし実施している。令和5年度は新規申込者に問診票を送ると共に、令和4年度の未受診者にも問診票を送付した。令和5年度における受診者数は増加したが受診率は平成31年度の値までは回復しなかった。
- 大腸がん検診 40歳から69歳の検診申込者のうち前半日程の未受診者に後期日程の開始前にはがきで受診の再勧奨を実施した。
- 評価：両検診共に当初の目標値には至らなかった。
- 理由：乳がん検診 感染症による受診控え以降、低下している。
- 大腸がん検診 全体の受診率と40歳から69歳の受診率も新型コロナウイルス感染症による受診控え以降、低下している。
- 今後：乳がん検診 2年に1回の検診であるが、前年度未受診者へ2カ年連続で問診票を送付し、受診を勧奨する。
- 大腸がん検診 今後は現在行っている受診勧奨の継続及び内容の改善や、市の公式SNSや市民課のデジタルサイネージ（電子看板）を使用するなどの周知を行う。また、他の検診と比較し、安価で受診者の身体的負担も低く受診が可能な健診であることを対象者へ合わせて周知していく。

イ 実施したが、当初の目標値には至らなかつた事業「△」(重点的取り組みを除く)

事業番号	事業名	評価指標	目標値	評価の理由・改善点
			実績値	
1	特定健康診査	受診率	60.0%以上	計画どおり実施したが目標に至らなかつた。詐欺の電話に対する警戒の高まりもあり、電話勧奨の架電率は悪化傾向である。未受診者について人工知能の活用により対象者を分類し、今までの受診履歴等被保険者のデータを基に、受診につながる確率の高い群を抽出し電話に加えハガキ勧奨することで、受診率向上を目指す。
			42.3%	
2	後期高齢者健康診査	受診率	41.8%以上	計画どおり実施したが目標に至らなかつた。健診受診率は目標値以下だが、かかりつけ医で定期的に受診・検査をしているため健診受診に至らない人がいる。今後も健診受診の必要性に関する健康相談に応じつつ、受診機会のない人には健診の受診勧奨を行う。
			29.3%	
8	肺がん検診	要精検受診率	90.0%以上	計画どおり実施したが目標に至らなかつた。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の蔓延のため検診受診率が低下し、精密検査受診率も伸びなかつたと考えられる。今後は業務時間内の架電に加え、時間外・土日の実施を検討する。電話のつながらない対象者には、返信用紙を郵送し、紙面による確認等を検討する。
			87.8%	
9	胃がん検診	要精検受診率	90.0%	計画どおり実施したが目標に至らなかつた。令和6年5月1日時点の暫定数値での評価としている。9月の法定報告まで継続実施するため、目標値に近い数値までの増加が見込まれる。目標値に到達できるよう、対象者への電話連絡、訪問等を継続していく。
			86.7%	
10	大腸がん検診	要精検受診率	90.0%以上	計画どおり実施したが目標に至らなかつた。過去に生活指導を受けたことのある人は、次の健診まで受診せずに様子をみたいと考えて受診しない人が多かつた。血糖値が高値で持続するリスクもふまえ、個別に保健指導や受診勧奨に努める。
			77.6%	
14	特定保健指導	実施率	64.0%	計画どおり実施したが目標に至らなかつた。過去に生活指導を受けたことのある人は、次の健診まで受診せずに様子をみたいと考えて受診しない人が多かつた。血糖値が高値で持続するリスクもふまえ、個別に保健指導や受診勧奨に努める。
			33.9% (暫定)	
15	特定健診事後指導	糖尿病性腎症重症化予防対象者の医療機関受診率	55.6%以上	計画どおり実施したが目標に至らなかつた。健診医師から高血圧の受診勧奨を受けても、本人がその必要性を理解できず受診しない人が多かつた。保健師等の専門職から保健指導を行い、医療機関の受診率と次年度健診数値の改善率の向上に努める。
			34.1%	
		生活習慣病重症化予防対象者の医療機関受診率	80.0%以上	計画どおり実施したが目標に至らなかつた。健診医師から高血圧の受診勧奨を受けても、本人がその必要性を理解できず受診しない人が多かつた。保健師等の専門職から保健指導を行い、医療機関の受診率と次年度健診数値の改善率の向上に努める。
			51.9%	

事業番号	事業名	評価指標	目標値	評価の理由・改善点
			実績値	
新4	後期高齢者健診 事後指導	医療機関受診率	80.0%以上	計画どおり実施したが目標に至らなかった。高血圧の受診勧奨対象者について保健師等の専門職から保健指導を行い、医療機関の受診率の向上と次年度健診数値の改善率の向上に努める。
			68.1%	
34	総合型地域スポーツクラブ	登録者数(延数)	1,000人以上	計画どおり実施したが目標値には至らなかった。引き続き広報やホームページ等を利用し地域啓発活動の強化をしていく。
			794人	
35	子どもの定期予防接種	MRⅠ期接種率	95.0%以上	計画どおり実施したが接種率が目標値に至らなかった。乳幼児健診等での母子手帳の確認や接種時期に合わせた接種勧奨を引き続き実施し、接種率の向上に努める。
		MRIⅡ期接種率	94.0%	
36	高齢者の定期予防接種	肺炎球菌ワクチン接種率	60.0%以上	計画どおり実施したが接種率が目標値に至らなかった。未接種者を対象とした接種率のため、65歳以上人口の60%となる目標値とは乖離があるが、県の接種率と比較し、接種率が高いため取り組みとしては効果が出ているので、今後も広報等による周知を継続する。
			16.9%	

ウ 実施できなかつた事業「×」

事業番号	事業名	評価指標	目標値	評価の理由・改善点
			実績値	
40	新型インフルエンザ等対策事業	適宜マニュアルの見直し	実施	訓練及び新型インフルエンザ対応マニュアルの見直しについては実施しておらず、令和6年度の市の組織体制変更に併せ実施するよう調整する。
			未実施	
		訓練の実施	実施	
			未実施	

(2) めざそう値の達成に向けた経過 [詳細] 資料3 (P. 1)

【集計】めざそう値の達成に向けた令和5年度の状況

	総 計	「達成」めざそう値を達成している	「改善傾向」現状値と比較し3.0%以上改善している	「変わらない」現状値と実績値との差が3.0%未満である	「悪化」現状値と比較し3.0%以上悪化している
めざそう値(割合)	2 (100%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)
代替項目(割合)	18 (100%)	4 (22.2%)	0 (0.0%)	2 (11.1%)	12 (66.7%)
合計(割合)	20 (100%)	5 (25.0%)	0 (0.0%)	3 (15.0%)	12 (60.0%)

※ めざそう値：計画期間内に達成を目指す目標項目。令和5年度に把握できた項目のみを集計。

※ 代替項目：めざそう値は市民アンケート等、毎年調査を実施できない項目が多いため、めざそう値を補う毎年評価可能な指標として設けた目標項目。

ア 「悪化」の項目

施策の方向性	具体的な取組み	項目の種類	目標項目
1. 生活習慣の改善	(1) 望ましい生活習慣獲得のための情報提供及び行動化を促す取り組みの強化	代替項目	1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施していますかの設問に「はい」と回答した者の割合（回答者数/受診者数）
			飲酒日 1日当たりの飲酒量はどのくらいですかの設問に「1合未満」と回答した者の割合（回答者数/受診者数）
			1歳6か月児健康診査受診者の保護者の喫煙率 父・母
2. 社会生活を営むために必要な機能の維持・向上	(2) 幼児期から健康的な生活習慣を身につけられるような情報提供と支援の充実	代替項目	朝食を欠食する子どもの割合の減少（小学生・中学生）
			肥満の子どもの割合の減少（小学生・中学生）
			やせの子どもの割合の減少（小学生・中学生）

3 食育推進計画の実施結果

(1) 取り組み事業の実施状況 [詳細] 資料2 (P. 5 ~ P. 9)

【集計】令和5年度の事業実績（重点的取り組み事業を含む）

	総 計	「◎」 当初の目標値 以上に実施で きた事業	「○」 当初の目標値 どおり実施で きた事業	「△」 実施したが、 当初の目標値 には至らなか った事業	「×」 実施できなか った事業	「-」 測定不能の事 業
事業数 (割合)	42 (100%)	9 (21.5%)	24 (57.1%)	8 (19.0%)	0 (0%)	1 (2.4%)

食育事業、相談事業、食生活改善推進員活動などは、目標どおり又は目標以上に実施できたものが多くあった。一方、地産地消関連事業は、実施したが当初の目標には至らなかった事業が多くあった。

ア 重点的取り組み

食育に関する新規啓発

重点的取り組み 1	生涯にわたるライフステージに応じた食育の推進					
	ライフステージに応じた望ましい食事がとれるよう、新たにスーパー・マーケットなどの販売店での啓発を行うとともに、ホームページやSNSなどを活用した啓発を拡充します。					
事業計画：食育に関する情報の新規啓発数						
	現状値 (H31 年度)	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
目標	-	3回	3回	3回	3回	3回
実績	2回	3回	3回			
評価	-	○	○			

実績：新規啓発を3回実施した。

	内容
1	「もっとベジ食べるプロジェクト」協賛店での野菜啓発掲示、レシピ・資料啓発
2	「おいしく減らソルトプロジェクト」協賛店での減塩啓発掲示、レシピ・資料啓発
3	「妊娠期・乳幼児期の食事」ホームページ・アプリ啓発

評価：当初の目標値どおり実施できた。

理由：野菜摂取量向上・塩分摂取量減を目的に「もっとベジ食べるプロジェクト」「おいしく減らソルトプロジェクト」を立ち上げ、スーパーなどの食品販売店で野菜減塩レシピの設置やプライスカード付近に啓発ポップを掲示して、市民が自然に健康づくりを意識できる取り組みを実施した。妊娠期・乳幼児期の食事について、新たにホームページや子育て応援アプリにて掲載した。

今後：今年度実施した啓発を継続するとともに、次年度は新たに幼児健診会場へ食生活改善推進員が考案した幼児期おやつレシピの設置、SNS(市のインスタグラム)を活用した情報発信や、葉酸配布に伴う食事バランスリーフレットの配布を行う。

しろい食育サポート店

重点的取り組み2	まちをあげた食育推進の取り組み											
市民が自然に健康になれる食環境づくりの推進として、健康的な食に関する情報やメニューなどを提供するしろい食育サポート店の登録促進を行います。												
事業計画：しろい食育サポート店の登録店舗数												
	現状値 (H31年度)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度						
目標値	17 店舗	23 店舗	26 店舗※	29 店舗	32 店舗	35 店舗						
実績	-	32 店舗	34 店舗									
評価	-	◎	△									

※目標を達成している年度は、前年度の実績値+3店舗を目標値として推進することとします。

→令和5年度の目標値：35店舗

実績：6店舗を新規で登録することができたが、4店舗の閉店があり、結果として目標値を達成することはできなかった。

評価：実績が目標値に達成しなかった。（当初の目標値は達成した。）

理由：市内飲食店が参加する食品衛生講習会を活用した事業説明により、飲食店へ広く認知されたことが申込につながったと推察されるが、閉店も多くあった。

今後：広報やしろいまっちと連携して、しろい食育サポート店の周知を継続し、健康的なメニュー提供の依頼や市が作成する食育資料等の充実を図る。

イ 実施したが、当初の目標値には至らなかった事業「△」

事業番号	事業名	評価指標	目標値	評価の理由・改善点
			実績値	
2	おすすめレシピ啓発事業	啓発回数	22回	目標どおり実施したが、ホームページのアクセス数は目標を達成できなかった。今後は、おすすめレシピ掲載の広報に、ホームページへアクセスできるQRコードを掲載し、より多くのレシピを啓発し、閲覧数の増につなげる。
			22回	
		ホームページアクセス数	530回以上	
			474回	
4	学校での食育啓発	給食便りの発行回数	12回	給食便りは目標どおり実施できた。試食会はPTA主催によって第一小、給食センターで計画どおり実施した。桜台小学校では新型コロナウイルス感染症の流行が収束したものの希望者が満たなかつたため、実施できなかった。今後も学校やPTA連絡協議会を通じて声をかけ、各学校PTA主催による給食試食会の開催について、提案する。
			12回	
		保護者試食会での啓発回数	3回	
			2回	

事業番号	事業名	評価指標	目標値	評価の理由・改善点	
			実績値		
9	かみかみ教室	集団栄養指導参加率	35%以上	計画どおり実施したが、参加率が目標値には至らなかった。(新型コロナウイルス感染症のため予約制・2部制・試食なし)令和6年度からは気軽に参加できるよう新型コロナウイルス感染症前と同様の予約不要にし、通知文の変更なども併せて参加率の向上を図る。	
			34.3%		
26	特定保健指導	特定保健指導実施率	64%以上	計画どおり実施したが、特定保健指導は9月の法定報告までは継続実施するため、目標値までには至らなかった。目標値近い数値までの増加が見込まれるが、目標値に到達できるよう、対象者への電話連絡、訪問等を継続していく。 (令和6年5月1日時点の暫定数値)	
			33.9% (暫定)		
27	地産地消応援店舗事業	登録店舗数	33店舗	計画どおり実施したが、新たな登録店舗の申し出が無かつたことから、目標店舗数に至らなかった。引き続き市内の店舗に周知を行い、事業の協力をお願いしていく。	
			28店舗		
28	しろいの直売所マップ啓発事業	掲載店舗数	38個	計画どおり実施したが、廃業等もあり目標値には至らなかった。引き続き生産者等に声掛けを行い、マップの掲載を進める。	
			33個		
29	地域における農産物販売所づくり	農産物直売所「やおばあく」の来客者数	108店舗	計画どおり実施したが、来客者数が目標値には至らなかった。今後、今まで実施できなかった地産地消のPR活動(イベント等)を再開、充実させるとともに、来客者数の増加を目指す。移動販売車については、ルートの見直しも含め需要のある場所への検討を行う。	
			104店舗		
38	しろい食育サポート店事業	登録店舗数	50,000人	目標値以上の6店舗新規で登録があったが、閉店が4店舗あったため、結果として目標値を達成できなかった。広報やしろいまっちと連携して事業周知を行い、登録促進を行う。	
			37,792人		
		農産物直売所「やおばあく」の移動販売車来客者数	10,000人		
			7,329人		
			3,010枚		

ウ 評価不能の事業「一」

事業番号	事業名	評価指標	目標値	評価の理由・改善点
			実績値	
31	市民農園開設の支援	開設数	1か所	開設希望者への相談・問い合わせ体制は整っていたが、開設希望がなかったため。市民農園の開設支援について周知するとともに、開設希望者による相談・問い合わせに積極的に対応する。
			0か所	

※統合・廃止事業について

- ・No17をNo18へ統合

令和5年度より、楽トレ・脳トレ参加者の多い募集・集合型のNo17(栄養・歯科口腔に関する高齢者向け講座)2回を廃止し、新たな一般受講者を増やすため、地域の住民が利用するサロン等、身近な場所へ管理栄養士が出向くNo18(通いの場における介護予防講座)3回へ統合し、合計5回のNo18を実施する。

- ・No30を廃止

令和5年度に農産物加工研究会が解散したため、令和5年度よりNo30(農産物加工研究会への支援)廃止事業とする。

(2) めざそう値の達成に向けた経過について

[詳細] 資料3 (P. 2)

【集計】めざそう値の達成に向けた令和5年度の状況

	総 計	「達成」めざそう値を達成している	「改善傾向」現状値と比較し3.0%以上改善している	「変わらない」現状値と実績値との差が3.0%未満である	「悪化」現状値と比較し3.0%以上悪化している
めざそう値 (割合)	6 (100%)	4 (66.6%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)
代替項目 (割合)	21 (100%)	3 (14.3%)	0 (0%)	2 (9.5%)	16 (76.2%)
合計 (割合)	27 (100%)	7 (25.9%)	1 (3.7%)	3 (11.1%)	16 (59.3%)

※ めざそう値：計画期間内に達成を目指す目標項目。令和5年度に把握できた項目のみを集計。

※ 代替項目：めざそう値は市民アンケート等、毎年調査を実施できない項目が多いため、めざそう値を補う毎年評価可能な指標として設けた目標項目。

ア 「悪化」の項目

施策の方向性	具体的な取組み	項目の種類	目標項目
1. 食と健康づくりの推進	(1) 生涯にわたるライフステージに応じた食育の推進	代替項目	苦手な食べ物(野菜)がある子どもの割合の減少(保育園児)
			嫌いな野菜が多いと回答した保護者の割合の減少(1歳6か月児・3歳児)
			朝食を欠食する子どもの割合の減少(保育園児)
			朝食を欠食する子どもの割合の減少(小学生・中学生)
			朝食を抜くことが週3回以上ある人の割合の減少(40歳以上)
	(2) 食育による生活習慣病の予防及び改善	代替項目	人と比較して食べる速度が速い人の割合の減少(40歳以上74歳以下)
			BMI値が25以上(肥満)の人の割合の減少(40歳以上女性)
			BMI値が20以下(低栄養傾向)の人の割合の減少(65歳以上)
			BMI値が18.5以下(低栄養傾向)の人の割合の減少(75歳以上)
			肥満の子どもの割合の減少(小学生・中学生)
2. 食を通じたコミュニケーション	(1) 食を通じたコミュニケーションの推進	代替項目	子どもだけで食事をすることが多いと回答した保護者の割合の減少(3歳児)

4 歯科口腔保健推進計画の実施結果

(1) 取り組み事業の評価状況

[詳細] 資料2 (P. 10～P. 12)

【集計】令和5年度の事業実績（重点的取り組み事業を含む）

	総 数	「◎」 当初の目標値 以上に実施で きた事業	「○」 当初の目標値 どおりに実施 できた事業	「△」 実施したが、 当初の目標値 には至らなか った事業	「×」 実施できなか った事業	「-」 測定不能の事 業
事業数 (割合)	33 (100%)	3 (9.1%)	22 (66.7%)	8 (24.2%)	0 (0%)	0 (0%)

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことに伴い、令和4年度まで中止していた歯科保健指導事業、普及啓発事業を再開、目標値以上に実施することができた。

目標値に至らなかった8事業のうち7事業が歯科健診事業となっており、いずれも受診率（者）が目標値に届かなかったことが主な理由となった。

ア 重点的取り組み

歯周疾患検診

重点的取り組み 1	生涯を通じた歯科疾患重症化予防に対する取り組みの強化											
歯科疾患重症化予防のため、歯周疾患検診の受診率向上を図ります。												
事業計画：歯周疾患検診受診率												
	現状値 (H31 年度)	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度						
目標値	-	4%以上	4%以上	6%以上	6%以上	6%以上						
実績	3.0%	3.4%	3.4%									
評価	-	△	△									

実績：申し込みのあった者に対し、受診票と一緒に歯周病罹患による全身への影響及び歯科医院の感染症対策についてのチラシを送付。

対象者 3,382 人 申込者 337 人 受診者 114 人

評価：計画どおり実施し、現状値との比較では受診率は向上したが、目標値には至らなかった。

理由：申込率は 10.0%。受診率を年齢別で分析すると 40 歳 1.3%、50 歳 2.0%、60 歳 3.8%、70 歳 6.7% となった。就労世代は休日を利用しての受診となることが予想されるため、申込はするものの受診まで至らないと推察される。

今後：特に受診率の低い 40 歳に対し、検診の周知と受診意識向上のため、全数に受診票を送付する方法に変更する。

後期高齢者歯科口腔健康診査

重点的取り組み2	生涯を通じてよく噛んで食べることや、口腔機能の向上に向けた歯の喪失防止の取り組みの充実											
生涯を通じた口腔機能の維持改善のため、新たに通いの場における支援などを実施します。												
事業計画：半年前より硬いものが食べにくく感じている76歳の割合												
	現状値 (H31年度)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度						
目標値	-	28%以下	28%以下	28%以下	25%以下	25%以下						
実績	29.3%	27.4%	25.3%									
評価	-	○	○									

実績：被保険者全数に受診票を送付し、千葉県内協力医療機関（市内15か所）にて個別実施。問診にて該当項目を調査。

対象者 1,045人 受診者 174人 受診率 16.7%

評価：計画どおり実施でき、目標値を達成した。

理由：適切な口腔衛生習慣と歯科受診がされていることにより、高齢者の咀嚼できる口腔内環境が整ってきているものと推察される。

今後：引き続き、通いの場をはじめとする高齢者に対する健康教育の場において、歯科受診行動の促進やオーラルフレイル予防について啓発していく。

かかりつけ歯科医の普及推進

重点的取り組み3	定期歯科健診受診率向上に向けた取り組みの充実											
歯周疾患の早期発見・治療のため、家族一人ひとりがかかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健診を受けることを勧奨します。												
事業計画：3歳児でかかりつけ歯科医がある幼児の割合												
	現状値 (H31年度)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度						
目標値	-	45%以上	45%以上	50%以上	50%以上	50%以上						
実績	38.8%	41.1%	58.7%									
評価		△	◎									

実績：各種事業やSNSを活用して普及啓発した。令和5年度より新たにふるさとまつりで歯科口腔保健啓発ブースを出店し、かかりつけ歯科医をもつことについての啓発チラシを配布した。

評価：実績が当初の目標値以上となった。

理由：昨今の歯科予防意識の向上により、幼少期からの定期歯科受診が定着できていると推察される。

今後：子育て世代に向けてのSNSを活用した勧奨に加え、引き続き幼児歯科健診や健康教育等の場でかかりつけ歯科医をもつことについて直接啓発していく。

イ 実施したが、当初の目標値には至らなかった事業「△」

事業番号	事業名	評価指標	目標値	評価の理由・改善点
			実績値	
1	妊婦歯科健康診査	受診率	20%以上	計画どおり実施したが、受診率と要精密検査者率が目標値には至らなかった。妊娠届出時の全数アンケートにて 39.2%が妊娠前から定期歯科受診をしていることが分かったため、妊娠期の歯科受診そのものは実績値以上にされているものと考えられる。更なる受診率向上のため、受診票を母子手帳別冊に同綴して交付する方法に変更する。
			19.6%	
		要精密検査者率	50%以下	
			68.3%	
2	1歳6か月児健康診査（歯科健診）	受診率	100%	いずれの健診も受診率または受診者が目標値には至らなかった。
			94.1%	
3	2歳児歯科健康診査	受診率	85%以上	1歳6か月児健診と3歳児健診は法定健診のため受診率100%を目指しているが、転出や家庭の事情により受診が難しいケースが一定数いるため目標値には至らなかった。
			79.8%	
4	3歳児健康診査（歯科健診）	受診率	100%	広報やSNSを活用するなど、世代に合わせた受診勧奨を行っていく。
			94.3%	
5	保育園歯科健康診査	受診者数	358人	受診率と要精密検査者率が目標値には至らなかった。
			354人	
8	歯周疾患検診	受診率	4.0%以上	特に受診率の低い40歳に対し、検診の周知と受診意識向上のため、全数に受診票を送付する方法に変更する。
			3.4%	
		要精密検査者率	60%以下	
			72.6%	
9	後期高齢者歯科健康診査	要治療者率	50%以下	要治療者率が目標値には至らなかった。高齢者を対象とした健康教育の場などで、適切な口腔管理方法についての周知啓発を行っていく。
			54.6%	
13	児童生徒の歯科保健指導	実施回数	5校	実施回数が目標値には至らなかった。新型コロナウイルス感染症における5類移行後、学校側の体制における流行前に引き戻すことが優先的となり歯科保健指導の実施依頼まで到達しなかったものと推察される。各学校の状況を鑑みながら、希望のある学校には全て実施していく。
			2校	

(2) めざそう値の達成に向けた評価状況

[詳細] 資料3 (P. 3)

【集計】めざそう値の達成に向けた令和5年度の状況

	総 計	「達成」めざそう値を達成している	「改善傾向」現状値と比較し3.0%以上改善している	「変わらない」現状値と実績値との差が3.0%未満である	「悪化」現状値と比較し3.0%以上悪化している
めざそう値 (割合)	10 (100%)	5 (50.0%)	0 (0%)	3 (30.0%)	2 (20.0%)
代替項目 (割合)	11 (100%)	2 (18.2%)	5 (45.4%)	2 (18.2%)	2 (18.2%)
合計 (割合)	21 (100%)	7 (33.4%)	5 (23.8%)	5 (23.8%)	4 (19.0%)

※ めざそう値：計画期間内に達成を目指す目標項目。令和5年度に把握できた項目のみを集計。

※ 代替項目：めざそう値は市民アンケート等、毎年調査を実施項目が多いため、めざそう値を補う毎年評価可能な指標として設けた目標項目。

ア 「悪化」の項目

施策の方向性	具体的な取り組み	項目の種類	目標項目
2. 歯周疾患の予防	(1)生涯を通じた歯科疾患重症化予防に対する取り組みの強化	めざそう値	60歳で未処置歯を有する人の割合の減少
		代替項目	妊婦歯科健診受診率の増加
3. 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持獲得	(1)生涯を通じてよく噛んで食べることや、口腔機能の向上に向けた歯の喪失予防の取り組みの充実	代替項目	3歳児で不正咬合等が認められる幼児の割合の減少
4. 定期的に歯科健診または歯科医療を受けることが困難な人に対する歯科口腔保健	(2)障がいを有する人、介護を必要とする人などに対する歯科医療情報の充実	めざそう値	市内で在宅歯科サービスを提供する施設数の増加*

※現状値の出所である「ちば医療なび」が公開終了のため、類似サービスの「医療情報ネット『ナビイ』」から実績を算出。現状値との比較が困難。

5 自殺対策計画の実施結果

(1) 自殺対策計画の数値目標

【数値目標—令和2年から令和6年平均の自殺死亡率を12.3以下にする】

策定時	目標	実績					
H24~28 (H30年)	R2~6	H25~29	H26~30	H27~31	H28~R2	H29~R3	H30~R4
17.6	12.3 以下	16.9	16.8	15.8	13.9	16.1	15.2

※自殺死亡率 人口10万人あたりの自殺者数。5年平均で表記しており、単位はありません。

(2) 市が重点的に取り組むべき対象者

※出典:地域自殺実態プロファイル

H29年 (H24~28 年)	H30年 (H25~29 年)	H31・R元年 (H26~30 年)	R2年 (H27~R1 年)	R3年 (H28~R2)	R4年 (H29~R3)	R5年 (H30~R4)
高齢者 生活困窮者	高齢者 生活困窮者 勤務・経営	勤務・経営 高齢者 生活困窮者	勤務・経営 高齢者 生活困窮者	勤務・経営 無職者 ・失業者 生活困窮者	無職者 ・失業者 勤務・経営 高齢者 生活困窮者	勤務・経営 無職者・失業者 高齢者 生活困窮者

(3) 取り組み事業の評価状況

〔詳細〕資料2 (P. 13~P. 16)

【集計】令和5年度の事業実績（重点的取り組み事業を含む）

	総 計	「○」 当初の目標 値以上に実 施できた事 業	「○」 当初の目標 値どおり実 施できた事 業	「△」 実施したが、 当初の目標値 には至らなか った事業	「×」 実施できな かった事業	「-」 測定不能の 事業
事業数 (割合)	35 (100%)	0 (0.0%)	30 (85.7%)	5 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)

8割の事業で目標値どおりに実施することができた。目標値には至らなかった事業は、講演会や教室等で、計画どおり実施したものの参加割合が目標に至らなかった事業と、相談員の人事費について当初の計画どおりの確保が難しかった一部の相談事業であった。

ア 重点的取り組み

小学校区単位でのゲートキーパー（命の門番）の養成

重点的取り組み1		様々な分野でのゲートキーパー（命の門番）の養成						
高齢者の見守りや相談に関わる人に対してゲートキーパー養成講座を開催し、自殺対策の視点でも支援できる人を増やします。								
事業計画：小学校区単位でのゲートキーパー（命の門番）の養成								
	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目標値	各小学校 区累計 2人以上		各小学校 区累計 10人以上 9学校区					
実績	7 小学校区	8 小学校区	1 小学校区	2 小学校区	3 小学校区			
評価	—	—	—	△	△			

実績：ゲートキーパー養成講座を実施 1回/18人養成

累計養成者数10人を達成した小学校区 3小学校区

定員を増やして若い世代への支援者へ対象を広げて実施したため、受講者は昨年度より増加し、累計数は100人を超えた。

評価：計画どおりに実施したが、目標値には至らなかった。

理由：対象者が少なく累計数が伸びない地区があったため、目標値には届かなかった。

今後：目標値に達していない地区を中心に講座の周知を行い、受講者数の増加を図る。特に若い世代の見守りや相談支援を行っている団体へも引き続き参加要請を行うなど、対象者を拡大する。

「くらしと仕事のサポートセンター」の周知及び相談体制の充実

重点的取り組み 2		自殺のリスクを抱える可能性のある人への支援						
		経済的・社会的困窮状態からの早期脱却を図るため、専門の相談窓口の紹介や相談者とともにプランを作成するなど、困窮状況に応じて自立に向けた支援を行います。						
事業計画：「くらしと仕事のサポートセンター」の周知及び相談体制の充実								
	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
目標値	事業の周知	「つなぐシート」の作成	「つなぐシート」の活用・連携	→	事業の周知			→
実績	事業の周知 ※「つなぐシート」の作成は1年延期	事業の周知 ※「つなぐシート案」の作成・検討	事業の周知	「つなぐシート」の作成は中止 事業の周知は継続	事業の周知を継続			
評価	—	—	△	○	○			

実績：令和 5 年度から新たに就労準備支援事業、家計改善支援事業を実施し、自立に向けた支援の拡充を行った。この他に事業の周知を広報紙やホームページへの掲載、SNS、リーフレットの作成、関係機関との連携により実施した。

評価：計画どおりに実施することができた。

理由：相談支援の周知及び相談体制の充実を行ったため。

今後：引き続き、相談窓口の周知を継続し、相談者の状況に合わせた支援を行う。

イ 実施したが、当初の目標値には至らなかつた事業「△」(重点的取り組みを除く)

事業番号	事業名	評価指標	目標値	評価の理由・改善点
			実績値	
新4	こころサポーターによるゲートキーパーミニ講座	実施回数	8回以上	計画どおり実施したが、目標には至らなかつた。受講者数は89人だった。
			6回	地区社会福祉協議会や民生委員など地域の福祉関係の団体への実施を行ってきたので、今後関係者や一般市民の方向けに興味をもっていただけるよう講座の内容の見直しを行う。
16	こころの健康教室	定員に対する参加割合	定員の8割以上	計画どおり実施したが、参加割合が目標には至らなかつた。こころの健康教室の受講者は22人、健康づくり講演会の受講者は48人だった。
			73.3%	受講者を増やすため、講演会で市民向けにアンケートを行ってテーマの検討を行う等、今後も周知方法・開催日程等について検討・工夫を継続する。
18	健康づくり講演会	定員に対する参加割合	定員の8割以上	相談員の入件費について当初の計画どおりの確保が難しく、相談員の勤務調整や指導主事等の職員の補助などの対策をしたが、相談日数を減らして実施することになり、目標値には至らなかつた。
			48.0%	
21	教育相談	教育相談員による相談実施率	95%以上	相談延べ件数は298件だった。教育相談の需要はあるので、勤務時間数の増加に向けて必要な入件費を予算計上できるよう引き続き府内で調整を行う。
			78.9%	

(4) めざそう値の達成に向けた評価状況

[詳細] 資料3 (P. 4)

	総計	「達成」目指そう値を達成している	「改善傾向」現状値と比較し3.0%以上改善している	「変わらない」現状値と実績値との差が3.0%未満である	「悪化」現状値と比較し3.0%以上悪化している
めざそう値(割合)	7 (100%)	5 (71.4%)	2 (28.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
代替項目(割合)	4 (100%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)
合計(割合)	11 (100%)	7 (63.6%)	3 (27.3%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)

※ めざそう値：計画期間内に達成を目指す目標項目。令和5年度に把握できた項目のみを集計。

※ 代替項目：めざそう値は市民アンケート等、毎年調査を実施項目が多いため、めざそう値を補う毎年評価可能な指標として設けた目標項目。

ア 「悪化」の項目

なし

6 第3次しろい健康プランの取り組みに対する意見

4計画	府内健康づくり推進会議	令和6年6月28日
健康増進計画	保健衛生事業計画医師会議	令和6年8月2日
食育推進計画	栄養士連絡会	令和6年7月23日
歯科口腔保健推進計画	保健衛生事業計画歯科医師会議	令和6年8月7日
自殺対策計画	自殺対策ネットワーク会議	令和6年7月31日

(1) 庁内健康づくり推進会議

テーマ	意見
「健康教育事業」における市民向けの各種講座の周知に関するアイデアについて	<ul style="list-style-type: none"> ○若い人向けにネットで情報配信を増やしてはどうか。 ○オンライン講座を検討してはどうか。 ○60歳で退職して国民健康保険に切り替える窓口来所者にチラシを渡して声をかけてはどうか。 ○スーパーのコーナー来所者等の別目的で訪れている人に声をかけるなどして気軽な参加を促してはどうか。 ○40代以上の利用者が多いフェイスブックを活用してはどうか。 ○食事・運動・睡眠の3つが大切。睡眠のニーズは高いためテーマに取り入れると良いのでは。
野菜摂取量向上と減塩を進めるプロジェクトにおいて効果的な提案について	<ul style="list-style-type: none"> ○レシピに掲載している食材の近くに、資料・レシピを設置するなど、設置場所を工夫してはどうか。 ○市民が興味をひく「筋肉」「たんぱく質」などのキーワードを入れたレシピや「簡単」に作れるレシピがあると良い。 ○野菜レシピだけではなく、人気の商品とコラボしたレシピだと興味を持ってレシピを持ち帰ったり、家で作るのではないか。(例: ポテトチップスに人参とマヨネーズを入れてアレンジするサラダなど ※SNSで流行)
ふるさとまつりにおける効果的な歯科口腔保健の啓発方法について	<ul style="list-style-type: none"> ○親子で参加できるような内容を実施する。ゲーム性があると良い。 ○子どもが足を止めるようなプレゼントを用意してはどうか。(風船など) ○参加者へのお土産を用意してはどうか。(サンプル品など) ○短時間で手軽に参加できる内容であることを強調してはどうか。 ○目を引くような目立つブース装飾をしてはどうか。 ○会場内のチラシ配布や声掛けを行ってはどうか。 ○若年層が興味を持つような分野に紐づけて実施してはどうか。

テーマ	意 見
子どもや若者、女性の相談などの支援に係る方へゲートキーパー養成講座の受講対象を拡げるために情報提供が可能かどうかについて	<ul style="list-style-type: none"> ○学校では5月に研修のカリキュラムを検討するため、年度当初に担当者と相談することができれば、研修テーマの候補に挙げることはできる。 ○主任児童委員の会議や子ども食堂で講座の情報提供することは可能。 ○学校から保護者向けに配布する資料については、事前に配布内容など教育委員会に相談が必要。電子版でチラシを配布している場合もある。

(2) 保健衛生事業計画医師会議

テーマ	意 見
生活習慣病予防を促すための工夫について	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣病の指標で目標が達成できていない項目等に関して、土日開催等の市民が参加しやすい環境を整えるのもひとつではないか。 ○子どもの肥満などの課題を解決するにあたり、その課題がどのような原因で生じているのかを分析し、その原因へのアプローチを考えた方が良い。

(3) 栄養士連絡会

テーマ	意 見
朝食欠食について	<ul style="list-style-type: none"> ○既製品等を取り入れた(簡単にできる)朝食の啓発をして、朝食作りへのハードルを下げるはどうか。 ○朝食の摂取段階に応じた提案を啓発するのはどうか。(欠食の人はまず一口、少し食べる人はプラスこの食品など) ○子どもの親に着目して啓発をするのはどうか。(親が作らないと食べない、生活リズムの乱れなどの課題があるため) ○保護者向けの朝食リーフレットを配布するのはどうか。 ○食べない子どもに対しては、養護教諭との連携や、生徒に声掛けをするなどを継続したい。 ○工業団地など、勤務先の企業などで、働く世代への啓発を行うのはどうか。 ○農産物直売所や収穫体験を通して、食への興味底上げすることが欠食を減らすことにつながるのでは。
野菜摂取量向上と減塩を進めるプロジェクトにおいての効果的な実施方法について、特に若い世代や働く世代(男性)へのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ○配布レシピは、簡単版や時短版を作るのはどうか。 ○病気になる前に(40歳からは遅い)というメッセージをポップなどで伝えるのはどうか。 ○野菜だけでなく、高タンパク質+野菜をセットにしたレシピで野菜摂取量向上をねらうのはどうか。 ○減塩弁当や野菜たっぷり弁当・総菜メニューの販売に向けて、店へアプローチをするのはどうか。

テーマ	意 見
ローチ	○体験型の啓発(塩分味覚チェックシートや野菜摂取量測定)は動機づけになるのではないか。

(4) 保健衛生事業計画歯科医師会議

テーマ	意 見
歯周疾患検診の受診率向上のための取り組みとして、土曜日・日曜日に診療を行っていること等を周知し、受診しやすくする取り組みについて	○市民によっては、土日が休みではない人もいるので、一概に休日も受診できるという文言は少し変えたほうがよいのではないか。 ○現在市で実施している周知方法で良いと思うが、市民へ正確に情報が伝わる表現にしたほうが良いと思う。

(5) 自殺対策ネットワーク会議

テーマ	意 見
自殺対策の啓発のアイデアについて	○美容室のスタッフ向けにゲートキーパー養成講座をやってはどうか。 ○介護職員向けのゲートキーパー養成講座をやってはどうか。
自殺対策で連携可能な取り組みについて	○自殺未遂者を把握した際に、本人の同意が取れた場合は、市の担当部署に支援者としてつなぐことはできる。(印西警察署)